

## 河川公園「背割堤地区」背割堤の先端部の自然環境について

淀川管内河川レンジャー（山崎出張所） 谷岡寿和子

### 「三川合流付近の自然」

2010年10月

淀川管内河川レンジャー（桂川出張所） 田子稔

背割堤（木津川と宇治川の間）及び、宇治川と桂川の上に伸びる堤、更に三川合流付近一帯の自然は、川が持っている多様な自然環境だけでなく、男山、天王山～西山に延びる山並みをも含めて多様な自然環境に恵まれている。

その多様な生物と素晴らしい景観は、国立公園、国定公園になってもおかしく無い。

植物では約700種、中には他にこれ程の群生は珍しいクサノオウ（ニワウルシの林の中に広がる）、ノウルシ（準絶滅危ぐ種）もある。また、河川では珍しいアケビ、アマナ、カテンソウ、ヤマネコノメソウ等も見られ、川が山と繋がっているのが分かる。

秋が深まればカラスウリの真っ赤な実が彼方此方で見られ、クコ、ツルウメモドキ、マユミ、オニグルミなども有り郷愁を感じさせる。

野鳥では約150種を数え、オオタカ（準絶滅危惧種）、ハヤブサ（絶滅危惧種）、チョウゲンボウ（準絶滅危惧種）、ノスリ（準絶滅危惧種）、ミサゴ（絶滅危惧種）などの鷲、鷹が生息し、冬季はシメ、アカゲラ、コゲラ、ベニマシコ、ジョウビタキ、ツグミ等も多い。

水辺にはミコアイサ、ヨシガモ、カワアイサ、マガモ、カルガモ、ヒドリガモ、キンクロハジロ、コガモなどいて絶好の探鳥地となっている。

更に、チョウ、トンボなどの昆虫も沢山生息し、秋の夜長はコオロギ、マツムシ、クツワムシ、カンタン、ウマオイがかまびすしい。

こうした生物と景観は市民の心を癒し、子供達には豊かな感性を育む貴重な教材ともなっている。そしてこれらは誰が植えた物でも、飼育しているものでも無く、自然に長い年月をかけてこの場に定着したものである。

こうした自然は何所にでも有った昔と違い、今では河川で細々と命をつないでいるのである。

そうしたことを考えると河川改修や、河川を利用する時、十二分の配慮が必要となる。

トキやコウノトリの二の舞にならない様に、またこの河川事業で今まで生息した生物が姿を消したと言われない為にも委員の皆様には十分の配慮をお願いしたい。



「クサノオウ」背割堤の先端部に群生する